

主催者挨拶

皆様こんにちは。公益財団法人日本海事センター会長の宿利正史です。

第1回 JMC 海事振興セミナーの開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

日本海事センターは、発足以来海事社会の中核的なシンクタンクとして、流動化する国際情勢の下、複雑化する海事関係の諸課題について、調査・研究に取り組んでおります。

当センターでは、これまで年に1回ないし2回、計29回にわたり「海事立国フォーラム」を開催してきましたが、今般これに加えて、「JMC 海事振興セミナー」を開催することといたしました。

このセミナーは、当センターの研究員が取り組んでいる研究テーマや、海事関係の皆様の関心の高い重要なテーマを取り上げ、有識者や実務責任者、また政策当局のご協力を得て、ご参加の皆様と共に、最新の情報や課題を共有し、課題解決に向けた方策などを考えていこうというものです。今後、年に数回、適宜開催いたしますので、どうぞこの機会をご活用いただければ幸いです。

第1回目の本日のテーマは、「新型コロナウイルス感染症の拡大等で大きく変貌するコンテナ船業界」を取り上げます。当センターでは毎月、世界の海上コンテナ輸送に関する荷動きと運賃の動向を公表しており、多くの皆様にご活用いただき、好評をいただいておりますが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが収束しない中、アジア・北米間やアジア・欧州間等を中心にコンテナの海上荷動量が増加する一方で、供給量の不足と港湾混雑に起因して、「輸送の遅延」と「運賃の著しい高騰」が発生し、過去に例を見ないグローバル・サプライチェーンの混乱が続いています。さらに、去る2月24日のロシアによるウクライナ侵攻に伴う経済の混乱が、世界の物流にも波及しつつあります。

このような状況を踏まえ、第1回目のテーマとして「大きく変貌するコンテナ船業界」を取り上げて本セミナーを開催する旨ご案内いたしましたところ、750名を超える多くの皆様のご参加の登録をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本日は、最初に当センターの後藤研究員から「海上コンテナ荷動きと市況の動向」について報告をします。その後「新型コロナウイルス感染症のパンデミックが海上コンテナ輸送に与えた影響や今後の見通し」について、まず、2017年に本邦海運3社により設立されたオーシャンネットワークエクスプレスの日本法人オーシャンネットワークエクスプレスジャパン(株)の戸田専務執行役員から、次に、今年の1月にコンテナ船の船腹量で世界第1位の座についたスイスの海運会社MSCの日本法人エムエスシージャパンの甲斐社長からご講演をいただきます。最後に、コーディネーターとして、当センターの客員研究員でもある松田拓殖大学教授からご講演と総括的なコメントなどをしていただき、その後に視聴者の皆様からのご質問にお答えする予定です。

本日のセミナーがご参加いただきました多くの皆様にとりまして真に有益なものなりますことを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。